

令和 2 年 6 月 1 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04800

研究課題名(和文) 伝統的工芸と生活デザインを結ぶデザイン学習モデルの開発

研究課題名(英文) Educative Methods for designing to connect Living Design & Traditional Crafts

研究代表者

千代田 恵子 (Chiyoda, Noriko)

愛媛大学・教育学部・教授

研究者番号：70322625

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)： 伝統的工芸の今日的な展開について、素材や技法による分野別の国内外のフィールド調査とアンケートより、1)新たな組み合わせ2)街並み形成と賑わいづくり3)体験型プログラムの充実の3点の重要性を導き、後継者の育成と教育に関して1)展示施設と社会教育2)学校教育とデザイン教育プログラムの2点を導いた。

その結果から、地域と共に特色を複合的に継続することを提案し、デザイン教育のプロジェクト課題の学習モデルを開発した。抽出したサンプルによるデータシートを活用してコンセプト形成力とデザイン提案力の育成を図るもので、タイ山岳民族とインドネシアバティックの染織の展示と共に愛媛大学ミュージアムで発表予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会一般におけるデザインの意義や領域の展開が急速に変化する中、美術教員にはデザインに対する苦手意識とデザインの有用性が絵画彫刻のような芸術ではないと捉える向きもあり、時間の制約と共に、生徒が鑑賞を超えて社会とつながるデザイン提案の喜びを味わう機会は少ない。

今回の学習モデルは、社会と共に育つ創造性を育むという学術的意義と伝統的工芸への若年層の無関心や後継者問題に対する有効な機会になる社会的意義が含まれる。

研究成果の概要(英文)：Regarding the current development of traditional crafts, based on field surveys and questionnaires by material and technique by field in Japan and overseas, 1) new combination 2) townscape formation and sales promotion 3) improvement of program through experience It led to importance, and led to two points, 1) exhibition facilities and social education, and 2) school education and design education program regarding the development and education of successors.

Based on the results, we proposed to continue the complex features together with the region, and developed the learning model of the project subject of design education. The data sheets from the extracted samples are used to develop the ability to form concept and the ability to propose designs. The results will be presented at the Ehime University Museum along with an exhibition of dyeing and weaving of Thai hill tribe and Indonesia batik.

研究分野：デザイン

キーワード：伝統工芸の今日的な展開 生活の美とデザイン コンセプト形成力 デザイン提案力

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 伝統的工芸は現代生活に馴染みにくく高価な昔のものというイメージが強いことが、魅力や価値の継承を危惧される背景にあり、美術教育においても伝統的側面を重視したデザイン教育は急務である。デザインの学びは使用感を通じた理解や社会との関連で考えることが重要であり、基礎デザインや鑑賞の比重が多い学校美術教育のデザインと社会のデザインとの乖離状況を縮める必要がある。

(2) デザイン教育の取り組みは造形要素を総合する構成力のみならず、デザイン提案のためにはコンセプト形成力の育成が肝要である。

2. 研究の目的

(1) 伝統的工芸存続の危機や後継者不足という社会的問題に、美術教育のデザイン分野で魅力を若年層に伝え、受け手と送り手の循環をも図る学習モデルの研究を行う。

(2) 造形要素を活用して伝統的工芸と生活デザインを結ぶという新機軸からコンセプト形成力の育成に必須の問題発見力と造形的解決の深化を目的とする。

3. 研究の方法

(1) 伝統的工芸品と伝統的工芸がかかわる生活デザイン分野に関する文献調査を通してフィールド調査(国内外)の対象地域を選出し、伝統的工芸の今日的な展開におけるモデル事例やデザイン活動を抽出する。

国内の伝統的工芸分野の中から、素材や技法による分野別に、鋳物/漆/染色/金箔/木工(そろばん)の5つを取り上げて、指定産地である高岡(富山県)/輪島(石川県)/京都(京都府)/金沢(石川県)/小野(兵庫県)で行う。

国外の伝統的工芸分野は、研究協力者のフィールドであるタイ山岳民族の染織とインドネシアのパティック(更紗)を取り上げ、チェンマイとジョグジャカルタとバリで行なう。タイ王室の支援と奨励策や世界無形文化遺産でもあるパティックの生産が現在も盛んなことが特徴である。

(2) 伝統的工芸従事者の意識に関する6項目(伝統工芸の影響/継承の意識/美術系の出身か/同業に美術系の出身は多いか/その影響や効果は/扱うものの魅力はあるか)について国内外でアンケートとヒアリングを行い、問題点を整理する。加えて、自由記述により2項目(どんなところが魅力か/現在の問題や今後の課題)についても問う。

(3) デザイン教育のプロジェクト課題へ導入のためにデータシートを作成し、実材も用いた学習モデルの提案を行う。

4. 研究成果

(1) 伝統的工芸が今日的な展開をするための課題を、抽出したモデル事例とデザイン活動から以下の4点を導いた。

汎用性や普遍性へ向かうことにより本来の特徴が希薄になるという問題点

伝統的工芸のポップ化による経済的成功と文化継承の危惧という功罪

対象と質から4つの層に分類し、独創的で質の高いボリュームゾーンとしてステージIIクラフト・デザイン雑貨の展開の重要性に着目(表1)

ステージI: 観光みやげは広い対象に対して興味の入り口としての役割

ステージII: ポップな雑貨は本物や本質への関心を誘う

ステージIII: 長いスパンで継承する広い裾野となる中継ステージ

ステージIV: 対象は狭いが、文化として質の高い継承発展を担う

素材と共鳴することでアイデアの展開につながるデザイン教育の造形素材としての検討

(2) 今日的な展開の方向性と可能性として以下の3点を導いた。

新たな組み合わせ

従来の用途を離れた技術やデザインの柔軟な組み合わせ

街並み形成と賑わいづくり

染色を用いた暖簾による活動と地域の特色を活かした街並み形成を勝山(岡山県)と小布施(長野県)で検証

体験型プログラムの充実

観光地などの体験型プログラムの充実は、魅力の伝達や愛好者の開拓にも大きな貢献材料

		表1 対象と質による多層化		
質/高い	IV			
	伝統工芸・アート			
	III			
	クラフト・デザイン雑貨			
	II			
	ポップな雑貨			
質/低い 対象/狭い	I			
	観光みやげ			
				対象/広い

(3) アンケートやヒアリング結果から、伝統的工芸への関心が次の世代に伝わるために、後継者の育成と教育について以下の2点を導いた。

展示施設と社会教育

観光地の充実した空間を有する展示施設は、ビジターセンター的な役割を超えて長期の交流と地元の社会教育を可能にする

学校教育とデザイン教育プログラム

理解や共感を持つ人々を広く育てるためには、デザインを専門に学ぶ学生に限らず、学校教育における取り組みが必要であり、デザイン教育が担う役割は重要

(4) 以上より、今日的な展開として、地域と共に特色を複合的に活かして継続することを提案した(図1)。

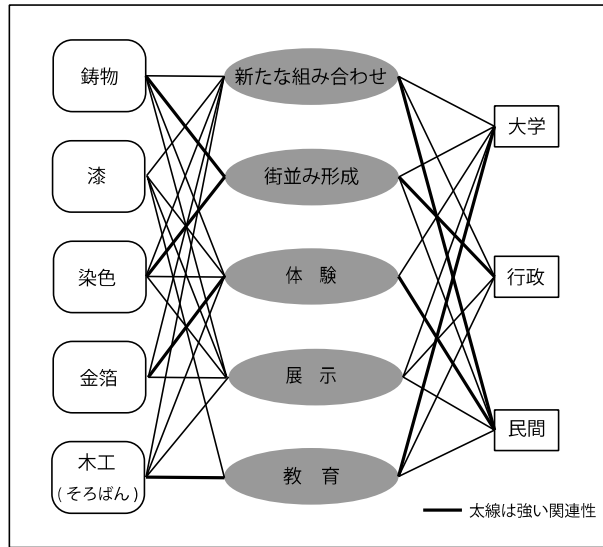


図1 今日の展開のための複合の関連性

(5) デザイン教育のプロジェクト課題としての導入方法を提案し、実践した。データシートには、写真と基本情報を提示し、造形の構成要素などの8項目(イメージ/色彩・調和/形態/素材・材料/加工・技術/機能/今日性・時代性/環境性・社会性)を検討して結果をレーダーチャート化する。理由も記入し、改良や新たなアイデアの展開にあたり、キーワードを示してスケッチを行うもので、数例を使用することで比較検討できるものとした(図2)。実物と共にデザインによる洗練の仕組みと取組みに関する問題点や課題を把握するものであり、コンセプト形成力を促すものとなっている。また、今回は、パティックの端切れを大量に入手することにより、実際の布を用いたことで、更に興味とモチベーションを高めたデザインの提案が可能となった。

(6) プロジェクト課題のパネル発表は、海外フィールド調査の成果であるタイ山岳民族とインドネシアパティックの染織に由来収集のアジアの布を加えた、「伝統的工芸と生活デザイン アジアの布とともに」(図3)で行い、展示期間は7月1日から8月3日で、7月5日に会場内でギャラリートークも行う予定である。会場は愛媛大学ミュージアムで、時期は企画展示室の使用状況を鑑み申請して決定したものである。成果発表の一環として当初予定していたHP作成を展示に変更したため、企画の準備と展示に必要な追加のフィールド調査も行った。

データシート No. 1 パティックの扇子

用途: ファッション雑貨
 材質: コットン
 価格帯: 中～高
 備考:
 ビテカントロブスはオリジナルパティックによるファッション雑貨のメーカーで観光客の定番ショップ

レーダーチャート

理由

アイデアの展開: key word

スケッチ

図2 データシートの例



図3 ポスター兼リーフレット

*新型コロナウイルス対策のために現在休館中であり、再開時期は決定していない。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 千代田憲子	4. 巻 66
2. 論文標題 伝統的工芸と生活デザインを結ぶデザイン教育について-2 -伝統的工芸の今日的な展開-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛媛大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 141 151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 千代田憲子	4. 巻 65
2. 論文標題 伝統的工芸と生活デザインを結ぶデザイン教育について-1 -タイ山岳民族の染織を例に-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛媛大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 211,218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>成果発表の一環として当初予定していたHP作成を愛媛大学ミュージアムにおける展示に変更し、プロジェクト課題のパネル発表は、海外フィールド調査の成果であるタイ山岳民族とインドネシアパティックの染織に従来収集のアジアの布を加えて、7月1日から8月3日展示予定である。「伝統的工芸と生活デザイン アジアの布とともに」期間中の7月5日に会場でギャラリートークを行う。なお、新型コロナウイルス対策により愛媛大学ミュージアムは現在休館中である。</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	岩下 陽子 (IWASHITA YOKO)		